



二酸化炭素を一日一人6kg出していると聞いておどろいた。

そのことを家で話したらさっそく減らす努力をした。

僕もエアコンを夜使うけれど、1度上げようとした。

この前ディズニーランドに行く時、

いつも車を使うのに、

電車で行った。



このようなことをしてどのくらい減らせたか

1kgはいいと思うけど

少しでも二酸化炭素が出る量を減らせればいいと思う。

(参加者 保理江 幹大くん)

八王子市子どもあこやか宣言普及啓発事業

はちおうじ

子どもミーティング



八王子市こども家庭部／環境部



■子どもミーティング～当日のスケジュール

10:00 子ども集合

10:00～ 打ち合わせ リハーサル

11:30 お昼

12:30 観覧者の受付開始

12:45 子ども着席

13:00 開始

ハ王子市黒須市長挨拶

みなみ野君田小学校 二田校長挨拶

子どもミーティング

(最後に時間があれば、みなみ野君田小学校を見学します)

16:00 終了予定



はちおうじ子どもミーティングです

1 はちおうじ子どもミーティングの概要

子どもミーティングは、子どもの視点で八王子市のまちづくりについて提案することを目的としています。今回のテーマは「環境」。

市内在住・在学の小学校五年生から中学校三年生までを対象として参加者を募集し、31名の子どもたちが参加者に選ばれました。

7月18日の環境教室は、市内の余熱利用施設「あったかホール」にある**エコひろば**を使い、環境学習・リサイクル推進協議会の協力で行われました。



二酸化炭素の排出量ってこんなにあるの？



浅川で水生生物採集中

この教室では、環境教育に力を注がれている市民団体の皆さんが講師をしてくださいました。



私たちの街は昔は森だった



さあ、みんなで考えよう



〈環境教室〉

① 「地球温暖化の学習会」・・・講師：中央地区環境市民会議

地球温暖化が深刻な今、自分たちにできることは何だろう？

② 「水の学習会」・・・講師：東南部地区環境市民会議

市内の１級河川「浅川」で生き物や水質を調べ、ふるさとの清流について学ぶ。

③ 「みどりの学習会」・・・講師：宇津貫みどりの会

生きものに必要な、酸素や水やみどりの関係、里山と農家の人との関係から自然の大切さを学ぶ。

7月27日には、事前学習会を行いました。

当日は市の環境部から環境政策課、環境保全課、ごみ減量対策課、水循環室の担当職員が、それぞれ市の取り組みや課題をお話してくれました。



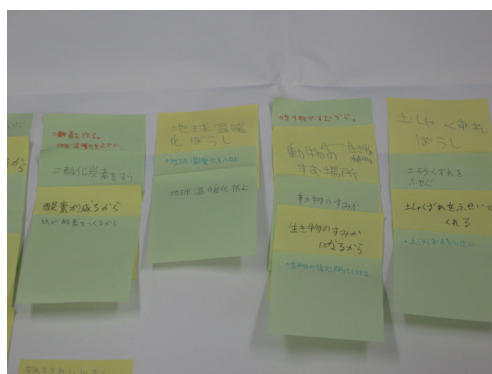
市役所の環境部の職員からお話を聞きました



ワークショップで議論中



職員も相談にのってくれます



どれも大事な意見です



その後は自分の興味のあるテーマに分かれ、「みどり」「地球温暖化」「ごみ・リサイクル」でグループをつくり、ワークショップを行いました。同じテーマについて自分の意見だけでなく、友達の話を聞くことで、より深く考えることができました。

ワークショップのファシリテーター（推進者役）は学生サポーターです。彼らはこの日のために研修や打ち合わせを重ね、子どもたちの意見が十分に発揮できるよう努めました。

こうした積み重ねを経て31名の子どもたちは本日の子どもミーティングを迎えました。一人ひとりの素朴な疑問からスタートし、仲間と議論を重ねて考えられた子どもたちの大切な提案です。どうか最後まで耳を傾けてください。

また、市では平成21年度に、環境基本計画をはじめ環境に関する4つの計画の見直しや策定を行っています。子どもたちのあたたかい思いが10年後のこのまちの環境づくりに届くことを祈ります。

2 子どもミーティングの背景

《子ども会議》

市では、国連の「子どもの権利条約」を受けて平成12年度に「子どもすこやか宣言」を行い、この条約の第12条「子どもの意見表明権」に基づき、子どもが自由に自分の考えや意見を発表できる機会をつくることをめざして「子ども会議」を毎年開催してきました。

平成16年からは「こども育成計画」の5つのブロック毎に地域の大人と子どもが一緒に、アンケート調査や地域新聞作成などを行ってきました。



H17 子ども会議～アンケート隊



H18 子ども会議～子ども地域新聞の記事



《子どもすこやか宣言》

八王子市では、平成12年3月につくった八王子市新地域福祉計画のなかで、子どもの権利条約の精神を尊重し、この宣言を行うことにしました。子どもと大人による文案検討委員会をつくり、そこで議論して、平成13年2月に発表したものが、この宣言文です。

八王子市子どもすこやか宣言

- 1 わたしたちは、人にはみんな違いがあり、みんなよいところをもっていることを認め、お互いに相手を尊重します。
- 1 わたしたちは、がまんすることの大切さを理解するとともに好きなことに夢をもち、元気にくらします。
- 1 わたしたちは、しっかりと自分を表現し、自分の意見や行動に責任をもちます。
- 1 わたしたちは、子どもたち一人ひとりが大切にされ、安心して生活できる家庭を望みます。
- 1 わたしたちは、家庭や学校そして地域で、学習する楽しさがわかり自分の可能性を伸ばすことのできる環境を求めます。

平成13年2月4日 八王子市



《子ども議会》

「子どもは何を言うかわからない。意見に責任はもてるのか」「子どもの意見が必要ならアンケートをとればいい。人数を限定して言わせることに意義はあるのか」「どうせ大人が言わせているのだろう」・・・「子ども参加」の取り組みが上手くいかないとしたら、おそらくこういった意見があることからでしょう。本市が子ども議会の実施に際し、学生サポーターを養成し、子ども議員の取り組みに時間をかけたのはこうした課題を克服するためでした。

平成20年4月。公募で集まった小学5年生から中学3年生までの子ども議員はごく普通の子どもたちでした。彼らに“議員”としての自覚を促すため、結団式で市長や現職の市議会議員と質疑応答を行ったり、施設見学で市民の方と直接お話をしてみたり、合宿で友だちととことん議論したりしました。

約半年間の活動でしたが、彼らはいろいろなものを残していきました。こども育成計画への提言をはじめ、私たちの「子どものしあわせ課」という名前もその一つです。そして子ども議会がなかったら、子どもミーティングもまたなかったでしょう。



結団式で今の思いを



地域の人からお話を聞きました



合宿して発言通告をつくる！



議場で発言「子どものしあわせ課をつくらう！」



3 子どもミーティングのキーワード

「子ども参加」

「子ども参加」とは、子どもたちが自らの可能性を広げていく場、学校や家庭や遊びの中で蓄えた「生きる力」を試せる場を、子どもたちに提供していこうという考え方です。

このことは子どもたちの自己実現にもつながります。子どもが自分の力を信じ、自分に対する肯定的な気持ちをもてるよう、大人は子どもを社会の中で受け入れる姿勢が必要と考えます。

「子ども参加」という考え方は、「子どもの考えを聞くことはいいことだ」という、単に子どもの考えを認めることではありません。

「子どもの主体性については理解している」と思っている大人が企画しても、子どもが単に人数合わせだけの参加者として扱われれば、「子どもの参加」はすぐに「大人中心」のものになり、気が進まない子に押し付けたり、子どもの年齢や能力をいかせないような方法で企画されたりしてしまいます。

子どもに意見を聴き、子どもの視点を真剣に取り上げ、子どもにとっての有意義な参加を忍耐強く継続して手助けするのは大人の責務です。そのために「子どもの権利条約の考え方を基盤としたアプローチ」が必要になります。

しかし、いくら企画段階から子どもに参加してもらおうとしても、現実には子どもに関わってもらうこと自体が難しく、課題となっています。

「人との関わりを避けたい。面倒くさい。目立ちたくない。だから、動くのは嫌だ！」
そんな子どもたちが多いのも現実です。これは、私たち大人も思い当たることが多いのではないのでしょうか。

大人が積極的に、子どもと関わり、忍耐強く子どもの取り組む過程を見守りたい。そのためには、なにより私たち大人が、変わらなくてはなりません。まず大人も参加してみるのが、責務を果たす“第一歩”になるのではないのでしょうか。



「学生サポーター」

子どもミーティングを支える大学生によるグループです。子どもを支える援助者となって活躍してもらえよう、昨年度の子ども議会から育成を開始しました。ワークショップや子どもとの関わり方の研修を積み、子どもに寄り添い、一緒に活動できるサポーターとしてのスキルを身につけてきました。知識やテクニックはもちろんですが、実際に活動に参加しながら「子どもにとって何が大切か」「私たちは何ができるのか」を感じとることのできる、頼もしいお兄さんお姉さんです。彼らがいなければ子どもミーティングの実現は難しかったでしょう。



アドバイザーによる研修風景



ワークショップではファシリテーター役

「アドバイザー」

平成 19 年度の子どもサポーター養成、昨年度の子ども議会に引き続き、主に学生サポーターの育成をアドバイスしていただきました。

山本 克彦氏（やまもとかつひこ）：岩手県立大学社会福祉学部福祉臨床学科准教授

公立中学校教員、保育園副園長などを経て、生涯学習研究所 SOUP で滋賀県の子ども議会などを企画運営。現在は岩手県立大学社会福祉学部福祉臨床学科准教授。児童福祉、グループワークを専門とする。◆著書に「わくわくどきどき自然大好き遊び!」、フレーベル館、2000 年◆「福祉教育実践ハンドブック」(共著)、全国社会福祉協議会、2002 年◆「子どもの参加-国際社会と日本の歩み-」(共著)、アジア太平洋人権情報センター、2005 年◆「子どもとマスターする 50 の権利学習-イラスト版子どもの権利-」(共著)、合同出版、2006 年ほか多数。



平成21年度子どもミーティング参加者

小学生 浅井 今日子
一 條 瑞季
岩 井 七海
上 西 未桜
江 上 理紗
大 島 堇
大山真里奈
奥 田 月
小 林 葵
佐久間夢実
佐々木 菫
佐藤 美瑠
杉 本 夏希
千 葉 麻由
戸 谷 咲良
長 井 慶成
久 松 夢依
平 野 利希丸
星野明日香
保理江幹大
南 佳希
村 松 大成
村 松 七海
山 中 美幸
山 本 安寿菜
渡 辺 夏奈

中学生 小 原 実
戸 谷 梓紗
中 山 雄仁
西 野 実樹
西 野 広樹

学生サポーター

稲葉 麻衣子
井 上 悠
上 野 夏美
梅 澤 幸世
大 内 未来
緒 方 友利奈
片 山 圭
小 林 あき香
小 松 詩歩
斉 藤 理恵
齊 藤 良平
佐 藤 亜海
菅 原 亜論
田 倉 尚朗
橋 本 弘之
畑 野 智子
松 田 ありさ
八木下 理仁亜
山 口 友歌
山 田 愛里



平成21年8月23日



会場：八王子市立みなみ野君田小学校

はちおうじ子どもミーティング

事務局 八王子市こども家庭部
子どものしあわせ課

〒192-8501

東京都八王子市元本郷町三丁目24-1

TEL 042-620-7391 (直)

E-mail b082600@city.hachioji.tokyo.jp